

鹿島守之助 実業家、政治家。鹿島組の婿養子として社長をつとめ、政界で活躍、日本外交史の上でも業績を遺した。

かしまもりのすけ

白馬会・・・1896 = 兵庫県揖保郡の豪農の四男に生まれ、

詩人で篤農家だった父の薫陶を受ける一方、母に軽んじられて育ち、

日露戦争終・1905 = **9歳**：

竜野中学時代は回覧雑誌をつくるなど、文学・哲学に傾倒、

明治天皇没・1912 = 16歳：

大正政変・・・1913 = 17歳：父が死去。

第一次大戦始1914 = **18歳**：京都の第三高等学校に入学、

校友会誌に投稿したり、弁論部で活動、

本格政党内閣1918 = 22歳：

東京帝国大学法学部政治学家在学中に高等文官試験外交科に合格して、

大暴落・・・1920 = 24歳： **外務省に入省。**

原敬首相暗殺1921 = 25歳：

水平社結成・1922 = 26歳： **初めて海外に出てドイツに赴任、船で{鹿島組}社長の鹿島精一と一緒にいる。**

関東大震災・1923 = **27歳**：

護憲三派圧勝1924 = 28歳：ドイツ哲学などに多大の影響を受け、「欧州の現勢とその将来」を刊行、

円本時代始・1926 = 30歳：「汎アジア運動と汎ヨーロッパ運動」を刊行、

金融恐慌・・・1927 = 31歳：帰国し、カレルギーの「パン・ヨーロッパ」を翻訳出版、**鹿島精一の娘卯女と結婚して婿養子となる。**

外交文書の調査に取り組み、

海軍軍縮条約1930 = 34歳： **国際連盟総会の随員として出席後、退官、推されて衆議院選挙に立候補するも落選、**

満州事変・・・1931 = 33歳：

五一五事件・1932 = **36歳**：

帝人疑獄事件1934 = 38歳：「世界大戦原因の研究」を発表した。

二二六事件・1936 = 40歳： **鹿島組取締役となって、会社の事業に直接関係するようになる。**

日中戦争始・1937 = 41歳：

健保+総動員 1938 = 42歳： ***社長に就任。**
鹿島製作所、東亜不動産など各社長を兼任。

日米開戦・・・1941 = **45歳**： **翼賛選挙で落選するも、推されて{大政翼賛会}調査局長に就任した。**

敗戦・・・1945 = 49歳：

新憲法施行・1947 = 51歳： **公職追放・言論バージとなったが、**
{鹿島研究所出版会}{鹿島映画}の社長を務め、進駐軍の仕事をするうち、

朝鮮戦争始・1950 = **54歳**： **基地工事で初めてジョイント・ベンチュアを行なうなど、近代的な手法を知り、**

独立回復・・・1951 = 55歳： **追放解除となって、土木業協会会長に就任、**

日経連・経団連の理事をつとめ、

テレビ放送始・1953 = 57歳： ***参議院議員の全国区に立候補して当選、**

なべ底不況・1957 = 61歳： ***第1次岸内閣で北海道開発庁長官に就任すると、{鹿島組}社長を妻に譲ったのをはじめ公職を辞任、疑い**
を持たれぬよう{鹿島組}の指名停止まで行ない、

美智子妃・・・1959 = **63歳**： **再び参議院議員に当選。日本外交史の実証的研究「日英外交史」で学士院賞受賞。**

安保闘争・・・1960 = 64歳：

全国総合計画1962 = 66歳： {鹿島記念文華会館}を設立して竜野市に寄贈、

東京初光'カ 1964 = 68歳：

霞ヶ関ビル・1968 = **72歳**：

大阪万博・・・1970 = 74歳：

ドルショック・・・1971 = 75歳： ***政界を引退。その後、鹿島研究所出版会・鹿島映画各社長。**

日中国交回復1972 = 76歳：「鹿島守之助外交論選集(全12巻・別巻3)」刊行。

石油ショック1973 = 77歳： **文化功労者。**

ケアンブール事件1975 = 79歳： **没した。**

「鹿島守之助経済論選集(全13巻・別巻2)」刊行。

日経「私の履歴書」、